

私は幼女

ファニーピエロ

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

転生時に可愛い女の子になりたいと言ったけどモンハンの世界だとは聞いてない!!!

モンハン世界を舞台に転生者達が繰り広げる物語です。

モンハン二次でハンターメインの作品が少ないので自分で書きました。

転生者複数と掲示板は自分が好きなので取り敢えずぶっ込みました。

処女作です。

目次

第5話	第4話	第3話	第2話	第1話
23	19	14	7	1

## 第1話

人間という生物は一時の衝動に身を任せ重大な決断をすることがある。そして、その決断は得てして後悔を生む。

—————

雲ひとつない青空の下、金属と獣の毛皮を重ね合わせて作られた鎧を着込んだ若者たちが大量の汗を流しながら走っている。

「ヒイツー・ヒイツッ!!」

走り回る若者たちの中でも特に幼い一少女とも形容できそうなほど一見た目をした女性が、顔の穴という穴から体液を撒き散らしていた・・・そう、私だ。

私がこんな惨めな姿を晒しているのには訳がある。それは私が1度死んだ時にまで遡る。

—————

色の無い空間に、歳は20になろうかといった男たちが困惑した様子で存在している。

体を自由に動かせないのか、はたまたこの空間に距離という概念が存在しないのか、男達は一向に動く様子もなく惚けた顔を晒している。

男達が醜態を晒していると、唐突にロウのような白い肌をした凹凸の少ない人型が現れ、一昔前の機械音声のような声で喋り出す。

『これよりあなた方を転生させます。転生における要望をご記入ください』

人型の言葉に驚く暇もなく男たちの前に半透明で簡素なパネルが現れ、行動を迫る。パネルには『転生における要望をご記入ください』と、人型の言葉と一言一句違わない文字が羅列されている。

いつそ清々しい程に感情のこもっていない対応に怒ったのか、つなぎを着た男が怒鳴り出す。

「どういうことだ！ 死んだと思ったらいきなり訳のわからんところに連れてきやがって、もつとちやんと説明しろ!!」

周りでただただ困惑していた男達も男の言葉が気つけになったの

か、男の言葉に賛同する雰囲気を纏い人型に責めるような目線を向ける。だが、人型からの言葉は無く、それどころかみじろぎ一つせず感情があるのかすら怪しいものだった。

男達は人型に話しかけるだけ無駄だと判断したのか、何人かで話し合う者や一人で考え込むもの、頭の中で妄想を練り広げているのかニヤニヤと気持ちの悪い笑みを浮かべる者、などに別れてパネルに記入を始める。

しばらく経って全員の記入が終わったと判断したのか、人型が先程と同じように感情を感じさせない声で話します。

『全員の希望を確認。転生を開始します。』

その言葉を最後に色の無い空間は何も無い空間になった。

—————

赤色を基調とした藁や瓦で出来た屋根を持つ何処か和の雰囲気を感ぜさせる建物が立ち並び、そこかしこから湯気が立ち昇る閑な村。ユクモ村と呼ばれるその村の門に青みがかかった黒髪の少女が気味の悪い程顔を青ざめさせながら立ち惚けていた。

「モ、モン・・・ハン・・・」

聞き慣れない言葉を発した後にピタリと動きを止めた少女のことをさすがに放って置けなくなったのか、門番というにはいささかうだつの上がらなさが目立つ青年が恐る恐る声を掛ける。

「お、おい、お嬢ちゃん。そんな顔してどうした？ 親はどこにいるんだ？」

青年が声を掛けても少女は顔を青ざめさせるばかりで反応を返さない。

これには青年も困り果てた様子で、助けを求めるようにキョロキョロと周りに視線を向けるが、生憎とそこまで人の出入りが激しく無いユクモ村で好き好んで門に近づく者は青年以外に居らず、『自分に解決できないなら他の人に丸投げしてしまえばいい』と生来の楽観的な考えから導き出した答えをさも最善策だとばかりに実行に移す。

「とりあえず村長のところに行こうか。村長ならなんとかしてくれると思うし。」

青年は知り合いの中で一番頼りになる人物を選び、幼女の手を引いてその人物のもとに連れて行く。

しばらく歩くと村の中でも一際大きい建物である集会場に続く階段の下にある長椅子に座っている女性を見つけ立ち止まる。その女性が青年の目的だったようで、青年は女性に話しかける。

「村長、門のところでのこの子が立ち尽くしていたんですけど・・・」  
「あら？私と同じ竜人族の子供？珍しいですわね。この子の親はわかりますか？」

「いや、それが何を聞いても心ここにあらずって感じで・・・」

「・・・わかりましたわ。取り敢えずこの子はわたくしに任せてください」

「ありがとうございます！　じゃあ俺は戻りますね」

女性が無事に幼女を引き受けてくれたことでホッとしたのか、青年はあふれんばかりの笑みで門の方に戻って行く。

「はじめまして、わたくしはこのユクモ村の村長をしております。あなたの名前を教えてくださいますか？」

ここに来るまでの道のりで冷静になったのか、相手が女性ということとで気が緩んだのか、今まで微動だにしなかった幼女が返事をする。

「名前・・・分かんない」

「では親御さんは？」

「・・・いない」

「・・・これも何かの縁です、あなたのことはわたくしが引き取りますわ。さあついてきてください」

村長は親も名前も無い同族に何かを感じたのか、何か愛おしいものを思い出すような顔をした後に幼女を引き取ると言い、彼女の手を引き自身の家に向かった。

—————

そんなこんなで村長に引き取られた私は今、村長の家でノビノビと育てられている。

あの謎の空間にいた時は今流行の転生だと舞い上がってしまい、読んでいた小説のノリで可愛い女の子になりたいなんて書いてしまっ

ていざ転生した世界がモンハンの世界で絶望したものだ。

他の世界に転生するならするって言うてくれよな。まあ、あの無愛想どころか感情があるかも分からないやつに期待するだけ無駄だろうけど。

それに可愛い女の子にはなつたけど自分に関する記憶は年齢以外消し飛んでるし、指が四本になってるしで思考がショートしちゃって鬼門番（笑）の兄ちゃんには迷惑をかけたな。あの兄ちゃんはどのようなも無いニートだけど私を村長に引き合わせてくれた恩があるからな、尊敬してやらんこともない。

村長に引き取られた私はもう甘やかされた。転生ショックで傷ついた心は瞬く間に癒されて今では娘の気分だ。形式上では引き取られただけが、村長も私のことを娘のように思ってると思う。いつも村長に似た着物を着せられてるし、温泉の女将業や村長の仕事も連れて行ってもらってる。容姿が似てることもあつてか今では村のみんなに親子だと思われている。

引き取られてからわかったことだが、私は足の構造が竜人のものではなく人間のものでおそらく竜人と人間のハーフらしい。らしいというのには村長もハーフを見たことがなくて確証が持てないかららしい。このことが分かってから、村長は時折小声で「あの人との間に子供がいたらこんな感じだったのかしら」と呟くようになった。多分あの人と言うのはMH3rdの主人公だろう。数年前にアマツマガツチを倒したハンターがこの村にいららしいし。

「カエデー……いきますわよー！」

村長が私を呼ぶ声が聞こえる。いつもの村長業に行く時間だ。

ちなみにカエデと言うのは名前のない私に村長が付けてくれた名前だ。村長の名前がモミジと言うから、そこから名付けたらしい。

「はー……い!!」

「カエデ、そんなに勢いよく走ったらはしたないわよ」

私が返事に答えながらドテドテと走るとはしたないと怒られる。

引き取られてからの半年でだいぶ躰けられたがクセと言うのは簡単に抜けないらしい。

私が玄関に着くと村長は私に手を差し出し、私はその手を掴んで外へ向かって歩きだす。

「……………」  
いつもの集会場下の長椅子で村長の膝の上に座っていると、レザー防具一式を着てハンターナイフを携えた見慣れない若者が近づいてきた。

「ウソラ村から来たアオキと言うものです、あなたが村長ですか？」  
どうやらこの青年の目当ては村長だったらしい。

戦い慣れてそうには見えないけど、新しく来た専属ハンターかな？  
「私が村長ですわ。専属ハンター派遣の話は聞いておりませんし、ハンターになりに来た方かしら？」

「はい、正確には訓練所に通いに来たと言うのが正しいですが。今日からこの村に住むことになるので挨拶をと」

「どうやらこの青年はハンターの卵らしい。」

ハンターか・・・前になって見たいと口に出したら村長にどれだけ危険な仕事か懇々と教えられながら説教されたからなあ、今は完全に村長の後を継ぐコースまっしぐらだよ。正直今でも憧れるけど危険なのは確かだし村長を悲しませてまでなりたい訳じゃないからな。  
「わかりましたわ。ちなみに住む場所はありますか？」

「はい、ウソラ村の商人の方が持つてる家を使わせてもらうことになってます」

「そうでしたか。では改めて、ユクモ村へようこそ。あなたを歓迎いたしますわ」

私は青年にずいぶんしつかりしてるなと言う印象を持った。歳は18くらいなのに家の確保までしつかりしているとは、もちろん村の人がやってくれたのかもしれないが挨拶もきちんとしてるししつかりしていることには変わらない。

私が密かに感心していると青年は私を見ながら口を開く。

「そちらのお嬢さんは娘さんですか？」

「ええ、血は繋がっていませんが私の娘ですわよ。半年前に引き取りましたの」



青年がなぜそんなことを聞いたのかは分からないが、私は今頭の中が幸せでいっぱいであることは気にならなかった。薄々察していたが、村長が自分の娘だと明言してくれたのだ、嬉しくないわけがない。

私が口がにやけそうになるのを抑えるのに必死になっていたらしいつの間にか青年は消えていた。それどころか日が沈みかけていた。「カエデ、そんなに喜んでくれるのは嬉しいですがもう日も沈みます。帰りますわよ」

どうやら私が必死に抑えていたにやけはバレていたらしく、いつもより跳ねた声で帰ろうと促される。

「はいーお母様ー」

その日の帰り道はこの世界に来てから一番幸せだった。

—————

それなりに広い木製の家の中、赤を基調とした藁と布で作られたベッドの上で昼間の青年が考え込んでいた。

「ユクモの村長に娘・・・半年前つてことはほぼ同胞で決まりなんだけどなあ・・・あの時幼女なんていたっけ？・・・要望で幼女になったとか・・・いや、あの反応は完全に幼女だったよなあ・・・時期は偶然か？・・・うーん・・・まあ何にせよ特大スクープには違いない、今夜も盛り上がりそうだなー」

青年はひとしきり悩んだ後には楽しげな表情になりそのまま眠りについた。

## 第2話

【転生】 掲示板 【181日目】

1 :

この掲示板は転生者交流用掲示板です。  
ご自由にお使いください。

2 : 名無しの兄貴

今夜もこの時間がやってきたな

3 : 名無しの狩り人

こんばんはー

4 : 名無しの狩り人

こんばんはー

5 : 名無しの狩り人

こんばんはー

6 : 名無しの狩り人

こんばんはー

7 : 名無しの狩り人

こんばんは。

今日もみんな無事に集まることができましたね。

8 : 名無しの狩り人  
ですね

9 : 名無しの兄貴

新人は今日も無しか？

10 : 名無しの狩り人

いないっぽいですね

11 : 名無しの狩り人

まあ、大型モンスター討伐が条件ですし早々こないでしょう  
ねえ・・・

12 : 名無しの狩り人

それどころか生き残りの同胞がいるかどうかも怪しいけどな

13：名無しの狩り人

まだ転生して半年ですし、ドンドルマとかシユレイドみたいな都市部に転生した奴は生きてる可能性はありますよ。希望を待ちましよう。

14：名無しの狩り人

都市部と言ったら、同胞探しの旅は実行できそうなんですか？

15：名無しの兄貴

俺と男爵で予定は立てたが、金が足りなくてな・・・

金さえあれば何の問題もないんだが、如何せん駆け出しハンターの懐事情では足りそうにないんだ。

16：名無しの狩り人

まあ、それは時間が解決してくれるでしょうし大丈夫でしょう。

17：名無しの兄貴

男爵・・・うむ。焦らずに頑張るとしよう。

何か話題のある奴はいるか？無いなら俺から報告するが。

18：名無しの狩り人

ありますけど長くなりそうなんで兄貴が先にどうぞ

19：名無しの狩り人

なんだなんだ？いいニュースか？

20：名無しの狩り人

おそろくいいいニュースですよ。それも特大の

21：名無しの兄貴

むむ、気になるが長くなりそうなら先にこちらの報告を済ませるか。

22：名無しの狩り人

ザワ・・・ザワ・・・

23：名無しの兄貴

今日俺と男爵でクック先生の討伐に成功した!!!

24：名無しの狩り人

おおー！ー！ー！

25：名無しの狩り人

すげー！すげー！！！！

26：名無しの狩り人

ついにクック先生を・・・ってもう駆け出しハンター卒業じゃ無い  
ですか！

27：名無しの狩り人

クック先生討伐はどんな感じでしたか？

28：名無しの兄貴

うむ、明日からは一人前のハンターを名乗っていいかもしれんな。  
クック先生はなんとか乙せず討伐できたぞ！まあ、俺と男爵は防  
御堅めの編成だからできたことだが。

29：名無しの狩り人

てか、ハンターになつて2ヶ月でクック先生討伐って凄く無いです  
か？

30：名無しの狩り人

ええ、村長がかなり早い部類だと言っていましたね。

31：名無しの狩り人

へえ、ココットの英雄のお墨付きかあ、やっぱ最初の討伐者だけ  
あつてすげえな兄貴。

32：名無しの兄貴

いや、初討伐は偶然に偶然が重なっただけだからな、一歩間違えれ  
ば死んでいたし。

33：名無しの狩り人

兄貴だけじゃなく皆さんも初討伐は死にかけてますしね。

改めて考えるとここに6人もいることが奇跡に思えてきますね。

34：名無しの狩り人

確かに、俺も兄弟がいなきや今頃ドスギアノスの腹の中だぜ

35：名無しの狩り人

一人だった兄貴たちとは違って俺たち兄弟は恵まれてるな

36：名無しの兄貴

ブラザーズはもともと一緒だし、俺と男爵はココットで合流できた  
からいいが、まだ一人きりのキャラバンと新人が心配だな。

37：名無しの狩り人  
それなんですけど・・・（キャラバン）

38：名無しの狩り人  
どうしたんだ？キャラバン（キャラバン）って笑えるなwww

39：名無しの狩り人  
同胞見つけました・・・

40：名無しの兄貴  
何っ!!! 本当か？

41：名無しの狩り人  
その同胞は無事なのですか？

42：名無しの狩り人  
ええ、はい、無事です。

取り敢えず見つけた経緯を説明しますね

43：名無しの兄貴  
頼む

44：名無しの狩り人  
ええ、そんなに複雑な事情はないんですけど。

最近バルバレが移動したんですが、今日バルバレにきたキャラバンの新人ハンターが初めてにしては慣れた様子だったんでもしかして  
と思つてブラフをかけたなら転生者でした。

つい最近訓練所を卒業してキャラバンのリーダーにスカウトされ  
たみたいで、今度一緒にドスジャギイを借りに行く約束をしました。

45：名無しの狩り人  
有能

46：名無しの狩り人  
流石、成り行きでドスジャギイを倒した男は違う。

47：名無しの兄貴  
でかした!!!

ちなみにキャラバン同士の討伐は大丈夫なのか？

48：名無しの狩り人  
うちのリーダーとあっちのリーダーが若い時コンビでハンターを

してたらしくて仲がいいので大丈夫です。

リーダーが元ハンターなのは驚きましたか。

49：名無しの兄貴

なんにしても良かった！これであとは新人だけだな。

そういえば新人も報告があるって言ってたな・・・まさか

50：名無しの狩り人

そのまさかかどうかは分かりませんが報告はあります

51：名無しの兄貴

だいぶ話が逸れたが報告頼む

52：名無しの狩り人

はい。

まず、今日の昼ごろにユクモ村に到着しました。

それで村長に挨拶しに行こうと思ったたら村長の膝の上に村長に似た竜人族らしき幼女が居ました。

53：名無しの兄貴

!!アツ!?村長に子供!?エツ!?

!!54：名無しの狩り人

!!55：名無しの狩り人

!!黙禱!

56：名無しの狩り人

また一つ恋が散った・・・orz

57：名無しの兄貴

は、は・・・は、話を戻すが、そ、それが全てか・・・?

58：名無しの狩り人

いえ、これだけなら村長が人妻だったってだけなんですけど、聞くところによるとその幼女は半年前に村長が引き取った子らしいです

!!59：名無しの兄貴

!!!!

同胞か!・・・いや、でもあの空間に幼女なんていたか?

60：名無しの狩り人

転生時の要望で幼女になりたいと書いたとかどうでしょう？

61：名無しの狩り人

いや、あの要望は叶えられないってことで結論出ただろ

62：名無しの狩り人

いえ、そうなんですが、私たちがながつたのは最強になりたいとか基本的にバランス崩壊系の願いです。

バランスに作用しない願いなら叶えられるということもあるかもしれないし、ちょうど半年前に引き取られたのはだいたい怪しいでしょう。

63：名無しの兄貴

男爵の意見もあり得なくはないが確証が欲しいな・・・

新人も半年前に引き取ったのを聞いて同胞かと思っただろう？  
キャラバンみたいにブラフは掛けなかったのか？

64：名無しの狩り人

それがですね、村長が私の娘と言ってからずっと顔をにやけさせまいとしてて反応がなかったんですよね、その幼女。

その反応が幼女すぎて、訓練所に行っちゃいました。すいません。

65：名無しの狩り人

それは幼女だわ。仕方ない

66：名無しの狩り人

俺でもそうする

67：名無しの兄貴

まあ、しようがないわな。

取り敢えず明日にでも探ってみてくれ。それで同胞だとわかったらサポートする方向で行こう。

68：名無しの狩り人

分かりました

69：名無しの狩り人

りよ

70：名無しの狩り人

あ、それとモンハン3rdの主人公がいたっぽいです

7 1 : 名無しの狩り人

!?

7 2 : 名無しの狩り人

!?

7 3 : 名無しの狩り人

!?

7 4 : 名無しの狩り人

!?

7 5 : 名無しの兄貴

!?

7 6 : 名無しの狩り人

まじか！いたっぽいってことは今はいないのか？

7 7 : 名無しの兄貴

これまで主人公の存在は確認できなかったが3rdはいるのか…

・  
・  
・  
・  
・  
・



### 第3話

お母様に娘と言われた翌日、私はお母様の仕事の手伝いで村の見回りと言う名の散歩をしていた。

昨日の夜から随分と体調が良い。気の持ちようでここまで調子が良くなるとは、今なら前世のうざったい教師たちの精神論も受け入れられそうである。

ユクモ農場でしばらく遊んでからお母様のところに戻っていると、雑貨屋の近くに昨日の青年が見える。

まだここに来たばかりで慣れてないだろうし村の案内でもしてやるか。今の私は機嫌が良いからな。

「おーい！ お兄さーん!!」

「ん?・・・ん!」

「ん?どうしたの?」

「いや、なんでもないよ。君は村長の娘さんだったね? 僕に何か用かな?」

なんか話しかけた時にめちやくちや驚いてたけど、何かあったのかな? もしかしてロリコンとか? いや、この好青年に限ってそれはないか。

「お兄さんこの村に来たばかりでしょ? 私が案内してあげるよ!」

「なるほど・・・そういうことならお願いしようかな」

「うん! ついて来て!!」

—————

鬼門番(笑)の紹介も終わったしこれで案内は終わりかな? にしてもなんであのニートはお兄さんに高圧的だったんだろ? やっぱニートの考えることは分かんないな。

「カエデちゃん、ちょっと聞きたいことがあるんだけど」

「なーにー?」

お兄さんが私に質問してくるが、村について聞くような雰囲気じゃないな・・・こんなところで危ないことはしないだろうけど、一応警

戒しとくかな？

「ユクモ村の美味しい食べ物ってどんなのがある？」

「ん？んー、全部美味しいけどユクモ村だけの食べ物なら竹の子に松茸、温泉卵とかかなー。温泉卵はそこから勝手に取ってつても良いよー」

想像以上にしようもない質問で気が抜けたけど、意外とグルメなのかな？

あー、ご飯のこと考えてたらお腹減って来ちゃった。ユクモ村は日本に近い食文化だから良かったけどポケ村とかに転生したら日本食が恋しくなってたかも。

「へー、そうなんだ、今日の夜ご飯はたけのこにしてみようかな」

「ねえねえ、お兄さんの故郷には美味しい食べ物はないの？」

ユクモ村は日本に近い食文化をしてるけどお米はないからな、お兄さんの故郷にワンチャンかけて聞いてみる。

「んー、僕の故郷の美味しい物かー、カレーとかお寿司とかかなー」

「カレー!!!お寿司!!!」

私は今、この世界に来てから最大の衝撃を受けてるかもしれない。カレーにお寿司があるってのもそうだけど、その二つがあるってことはお米があるってことだ。いつかお兄さんに故郷に連れてってもらうか？ いや、もういつそのこと自分で行っちゃうか？

私がそんなことを考えていると、お兄さんは何かを確信した様子で私を見てから口を開く。

「カエデちゃん転生者でしょ」

周りに聞こえない程小さな声で言われたその言葉は私の頭に嫌に響いた。

今お兄さんはなんて言った？ 転生者って言わなかったか？ まさか私と同じ転生者なのか？ 転生してから半年間同じ転生者に会わなかったからってつきり一人ずつ並行世界的なものに飛ばされたかと思ってたけど、もしかしなくても全員同じ世界にいるってこと？

私の頭の中でいくつもの考えが浮かび上がる中、思考を強制的に止めるようにお兄さんから声がかかる。

「ここで話すような話じゃないし一旦僕の家に行かないかい？」

私は中途半端にしか機能してない頭で半ば反射的にお兄さんの言葉に領き手を引かれるのに従い歩き出す。

「……………」

「さて、此処に来るまでにある程度落ち着いたと思うけど君は転生者ってことで間違いないかい？」

「うん」

「じゃあ、色々聞きたいこともあるだろうけど一旦僕の話聞いてくれ」

私は多少は落ち着いた頭でお兄さんの言葉に頷く。

「まず一番気になってると思う同胞のことから話すね。今居場所が分かっていて連絡の取れる同胞の数は僕と君を含めて8人、みんな2人ずつでココット村、ポツケ村、バルバレでハンターをしていて、1人以外は訓練所を出てからハンターになって僕も昨日から訓練所に通ってる」

8人か・・・多いのか少ないのかよく分からないな。あの空間にいた人間の数を考えると少なすぎるように思えるけどモンハン世界だし8人もいるだけマシなのかもしれない。それに連絡をとってるって言ったけどどうやってるんだろ？ココットとポツケの距離を考えるとお互いの生存確認なんて絶望的じゃないかなあ？ 転生特典だとしても連絡取れるのが8人ってのは少なすぎるしなあ。

私が考えに浸っていると、話を理解したと判断したのかお兄さんが再び話だす。

「気になってると思う連絡方法だけど、おそらくはあの空間にいた人型製の脳内掲示板だよ。睡眠中に入れるようになってるんだ。ただし、転生者なら誰でも使えるってわけじゃなくて、大型モンスターを狩ることが条件だよ。僕もこの前村に襲いかかって来たドスジャギイを倒してから使えるようになったんだ。ほら、これがその時の傷だよ」

お兄さんはそう言って左腕の袖をまくる。

う、うわあ、肘から手首にかけてめちゃくちゃデカイ傷跡があるよ。

爪でやられたのかなあ？ てか、訓練所行ってないのにドスジャギイ倒すってこのお兄さん超人かなんかか？それに掲示板開放の条件が大型モンスター討伐とか厳しすぎるでしょ、よく8人もいるなあ。

「まあ、そんなこんなで同胞が8人もいるのは奇跡だね。僕たちは積極的に同胞を探す方針で活動してるからね、君が同胞だと分かったから今日の掲示板は盛り上がると思うよ」

「積極的に探すってことはいろんな村を回ってるの？」

「私はお兄さんの話が終わったと判断して質問をする。」

「いや、今は転生者の中で一番強い人でもクツク先生を倒せるくらいだからね、計画はしてるけどお金が足りなくて実行に移せてないんだ。取り敢えず今やってるのは焦らずにハンターとしての腕を上げながら近隣の村を回るくらいかな」

半年でクツク先生か、早いのかな？ いや、半年であんな火を吐くクソデカイ化け物を狩れるようになったんだ、速いに決まってる。

にしても最強系のチートを頼む人はいなかったんだろうか？ 持ってたら分かるだろうし多分いないだろうけど。

「聞きたいんだけど、君のその見た目は転生時の要望かい？」

「うん、そうだよ」

「うーむ・・・大幅な若返りと性転換は可能なのか、それなら何人かは有用な特典を持ってそうだが、上限がないと思考が単純になりやすいのか？ ますます人型の悪辣さが浮き出るな・・・」

お兄さんがゴニョゴニョと考察し始めたが、間違いがあるから訂正する。

「お兄さん、私は若返ってないよ」

「ん？ いや、君は完全に幼女じゃないか、あの空間にはそこまで若い人間はいなかったが・・・ん？まてよ、そういえば竜人族は寿命が長かったんだ！なるほど年齢は変わらないが竜人族的には幼女だったということか」

「いや、竜民族的に幼女なのは間違ってるけど、私は半竜人だし見た目は完全に成長しきってるよ。村長と加工屋のおじいちゃんが言うてたよ」

「むむむ・・・」

私が教えるとお兄さんはまた悩み出す。

結構考察とか好きなタイプなのかな？ 竜人族の寿命のこと知ってたし。

「ねえねえ！こつちも聞きたいことがあるんだけど!!」

「・・・ん？なんだい？」

「カレーとお寿司って前の世界とおんなじなの？」

私はずつと気になっていたことを聞く。

なんなら同胞のことよりもこつちの方が気になるまでである。

「ん？ああ、いや、あれは君が転生者かどうか確かめる為に言った嘘だよ。僕がいた村の食事はユクモ村の劣化版みたいな感じさ」

・・・  
私はこの世界に来てから最大の悲しみを味わうと同時に、初めて殺意というものを覚えた。

## 第4話

私はお兄さんの髪を刈り殺してから、お母様にハンターになる許可を貰うべく家に帰って来た。

前はお母様を悲しませてまでやる魅力を感じなかったハンターだが、同じ転生者といつも繋がってられるというのはとても魅力的だ。なんならドスジャギイを狩って掲示板を解放したらハンターをやめても良いしな。

問題はお母様をどう説得するのだが、ある程度は真実を話すべきだろうな。そうでもしなきゃ納得してもらえそうにないし。

そんなことを考えていると、お母様のいる居間にたどり着いた。

「お母様、話があるの」

「・・・分かりましたわ、そこに座ってください」

お母様がやけに重い雰囲気纏っているが、何かあったのだろうか。

余計なことは頭の隅に追いやり、私は話始める。

「お母様、私ハンターになりたい」

「・・・とりあえず、訓練所に通うことは認めます。私も訓練所を卒業するまでには覚悟を決めますわ」

なんの説明もなくハンターになることを認められたことに私は驚くと共に疑問を覚える。

これは本格的に何か良からぬことでも起こったのでは無いか？という考えに至って、私はお母様に疑問をぶつける。

「この前はあんなに反対してたのに、なんで今回はこんなすんなり許してくれたの？まさか村にモンスターが迫ってるのか？」

「いいえ。たとえモンスターが迫っていたとしても観光に来るハンターさんに討伐を依頼しますし、訓練所はそんなに早く卒業できません。今回ハンターになることを許したのはあなたの目を見たからですわ」

「目を？」

「ええ」

私の質問に答えた後にお母様はどこか遠くを見つめるように語り出す。

「ハンターになりたいと言った貴方の目は、この村を脅威から守ることを決めたあの人の目とそっくりでしたから」

「あの人ももしかしてアマツマガツチを倒したハンターのこと？」

私がそういってお母様は酷く驚いた様子で私を見る。

村を驚異から守るって時点でほぼ確定されてるんだけど、もしかして私ってアホの子だと思われてる？

「知ってましたのね」

「うん。村の人たちが凄く楽しそうに私たちの英雄だと言ってたんだ。……あのニートも」

「そう……確かにあの人はこの村……いえ、人類にとつての英雄です。それ故に私の元から去ってしまわれた」

お母様が凄く悲しそうな、それでいて誇らしそうな顔でお腹ー丁度子宮のあたりーを撫でながら言う。

なんかこれ以上追求するとヤバそうな雰囲気がある。親のディープな話を聞かされるほど気まずいことはないと思ひ、私はとつきに話題を変える。

「く、訓練所に通って良いってことなら早速明日から通っても良い？  
良いよね！」

「ん？ええ、良いですわよ。ですが辛くなったらいつでもやめ……いえ、覚悟を決めた娘にこんな言葉は要りませんわね。良いハンターになれるように頑張りなさい」

「うん!!」

私はお母様の激励にこれ以上ない笑みを浮かべる。

別に話題を逸らせたから喜んでるわけじゃない。ないったらない。  
—————

私はお母様にハンターになる許可をもらったことをお兄さん、いや、アオキに知らせるために彼が住んでいるそこそこ大きめの家に来ている。

扉の前で一瞬ノックしようか悩んだが、あの邪智暴虐な男にそんな

気遣いは必要ないと思ひ直し、遠慮なしに彼の部屋に入り込む。

「ん？おお、カエデか、どうだこの髪型？ 結構いけてないか？」

私は目の前の光景に一瞬思考が停止する。

奴は私が髪を刈ったことを物ともせず、それどころか生意気にも新たに剃り込みまで入れておしやれをしていたのだ。

これでは奴の髪を刈り殺した意味がない、新たな可能性を開いただけだと思ひ、私は近くにあつたナイフを手に、奴に躍りかかった。

「—————」

「それで、村長から許可は取れたのかい？」

奴は滑稽な頭で私に聞く。

「うん、明日から訓練所に通うことになったよ」

「そうか、これでまた掲示板での話題が増えたな」

奴のやたらと光を反射する不毛地帯を見ていると笑いがこみ上げてくる。

これだけやったならもう許しても良さそうだな。さすがにこいつも反省してるだろ。

「ねえ、訓練所ってどんくらいで卒業できるの？」

私は前から気になってたことを聞く。

個人個人で実力の伸びは違うだろうし、自分が卒業にかかった期間と比べてハンターになってからの進退を見極めたい。

「訓練所の教官が言うには大体半年くらいで卒業するらしいな。才能がない奴は強制的に退学にさせるらしい。」

半年かー、それを考えると同じ転生者たちは普通かそれよりちよつと上つてところなのかな？ 強制退学は厳しく思えるけど、命がかつてる職業だしそのくらいが普通なのかなあ？

「ちなみに最速卒業は1ヶ月で、噂の3rd主人公（仮）は訓練所に通つてすらいらないそうだ。まあ、俺たちの同胞にも一人いるけどな」

さすがは主人公、古龍を倒すだけあつてスタートから一般ハンターとは違うなあ。

てゆーか昼にも聞いたけど転生者の中に訓練所でてない人がいるのか、もしかしてチート主人公みたいな人だったりするのか？ 転



生特典はないっぽいし正真正銘の天才肌の人なんだろうなあ。

ぐううう

二人だけの静かな部屋に私のお腹の音が鳴り響く。

お腹の音が鳴った程度で恥ずかしがるような乙女心は持ち合わせてないが、散々いじめた相手に聞かれるのはなかなか恥ずかしく、私はお腹を抑えて赤面する。

「昼にも言ったが今日は竹の子をふんだんに使ったご馳走だ。よかつたら食べていくか？」

アオキの完全な無表情から出てくる、さも気にしてないような言葉に余計に私の顔は熱くなった。

夜ご飯はご馳走になった。

## 第5話

【転生】 掲示板 【182日目】

1 :

この掲示板は転生者交流用掲示板です。  
ご自由にお使いください。

2 : 名無しの兄貴

今夜もこの時間がやってきたな

3 : 名無しの狩人

こんばんはー

4 : 名無しの狩人

こんばんはー

5 : 名無しの狩人

こんばんはー

6 : 名無しの狩人

こんばんはー

7 : 名無しの狩人

こんばんはー

8 : 名無しの兄貴

今日も全員無事、新人無しか。

9 : 名無しの狩人

今日は新人の報告次第で新人追加だぜ

10 : 名無しの狩人

新人がきたら見分けつかなくなりそうですね、これ

11 : 名無しの狩人

それな

12 : 名無しの狩人

じゃあ坊主でお願いします

13 : 名無しの兄貴

ん？お前坊主だったのか？

14：名無しの狩人

意外ですね。

まあ、ここでしか関わりはないんですけど

15：名無しの狩人

いや、昨日まではふさふさでしたよ

今日件の幼女に毛刈りされただけです

16：名無しの狩人

なんだ？怒らせたのか？てか、そいつは同胞だったのか？

17：名無しの狩人

結果から言えば同胞でしたね。髪は確認の時に言った嘘が気に入らなかつたらしくてやられました

18：名無しの狩人

その同胞の気性が荒いのか、坊主の嘘がひどかったのか・・・

19：名無しの兄貴

まあ、新たに同胞が見つかったのは良いことだ。

幼女が同胞だと分かったから転生特典も条件次第では履行されることもわかったな。

幼女の詳しい情報を教えてくれ、坊主よ。

20：名無しの狩人

はい

名前：カエデ（幼女）

人種：半竜人（足が人間）

外見：ミニユクモ村村長

備考：半年前にユクモ村に転移、その日に村長に引き取られ半年間育つ。基本的に何不自由なく過ごしていて村人との仲も極めて良好。見た目幼女だが年齢は転移前と変わらず、体は成長しきっている（村長と加工屋談）。体は小さいが身体能力は成人男性に負けない程。即日訓練所行きを決めるなど行動力はあるが、極めて気性が荒く正しい判断力があるかどうかは疑問。人の髪を殺すことに躊躇がない危険人物。

こんな感じですかね

21：名無しの兄貴

私怨が混ざってそうだが情報ありがとう

ハンターになろうとしているのは分かるがリーチの短さは大丈夫なのか？身体能力は鍛えれば良いがリーチがないと近接はかなりきついし遠距離もそこそこきついぞ

22：名無しの狩人

確かに、リーチの短さは致命的ですね。的は小さくなりますが回避距離も歩幅も短くなりますし、大剣と太刀なんて背負えるかも怪しいんじゃないですか？

23：名無しの狩人

まあ、ダメそうなら卒業できねえし大丈夫だろ

24：名無しの兄貴

ハンターになれたら坊主とコンビが組めるから安心なんだがな

25：名無しの狩人

なれなくても卒業する頃には飛行船で移動できそうなんで助けが入りそうなら呼んでくださいね

26：名無しの狩人

分かりました。

27：名無しの兄貴

他に報告がある奴はいるか？

28：名無しの狩人

ないぜ

29：名無しの狩人

ない

30：名無しの狩人

ないです

31：名無しの兄貴

じゃあ雑談に移るか

・

・

・

201：名無しの狩人

そう言えば兄貴今日武器を変えてましたよね

202：名無しの狩人

お？クツク先生の素材か？

203：名無しの兄貴

ああ、ボーンブレイドから昨日狩ったクツク先生の素材で作ったザンシユトウ【鶏】に変えたぞ

属性ダメージで斬跡が焼けたのには軽くびびったな

204：名無しの狩人

兄貴大剣使いだったんだな、初めて知ったわ

205：名無しの狩人

確かに誰がどの武器を使ってるか知りませんね

ちなみに私はスパイクスピアを使っています。防御重視ですね

206：名無しの狩人

大剣にランスかあ、小回り効かなそうですけどそこらへんどうしてるんですか？

207：名無しの兄貴

基本的に防御主体でデカイ隙ができたなら一撃打ち込む感じだな。

男爵が攻撃をスカさせるのがかなり上手いから俺は若干攻撃重視で動いてるけどな

208：名無しの狩人

なるほど、複数人だからこそその連携プレイですね

209：名無しの狩人

俺が使ってるのはお馴染みの鉄刀だけ

凍刃目指して強化してるぜ

210：名無しの兄貴

なるほど、ポツケ村なら凍刃の素材が集まりやすいからな。

211：名無しの狩人

鉄刀ですか。ゲームでは見た目がいいので最大強化して使っていた思い出がありますね

212：名無しの狩人

男爵は見た目をこだわる派だったのか。俺は性能重視でいつもきもいキメラ装備になってた思い出があるぞ

それと俺の武器はボーンシックルだぜ。結構軽いから時々頼りなく見えるけどな。

213：名無しの兄貴

ブラザーズはどっちも超攻撃型の武器だな。被弾は怖くないのか？

214：名無しの狩人

いや、どつちかって言うとかガードの方が怖くねえか？

215：名無しの狩人

ガードは大迫力ですが自分とモンスターの間に壁があるとないとかじゃ精神の安定具合が段違いですよ

216：名無しの兄貴

まあ、そこは人それぞれだろ

キャラバンは何を使ってるんだ？

217：名無しの狩人

私は精鋭討伐隊盾斧を使ってます

218：名無しの狩人

おお、チャアクか、変わり種だな。変形とかどんな感じなんだ？

219：名無しの狩人

バタフライナイフ出し入れしてるみたいな感じですね

220：名無しの兄貴

(バタフライナイフ出し入れすることなんてあるか？普通)

221：名無しの狩人

(そこは察してやれよ兄貴)

222：名無しの狩人

(どうするんですかこのいたたまれない空気)

223 : 名無しの狩人

(ちくわ大明神)

224 : 名無しの狩人

(誰だ今の)

.....